

1. 基本情報						
事務事業番号	02437	事務事業名	図書館運営事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課長	北井上 真悟
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理図書グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3053
予算科目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和33年度 ~)	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度(~)	
	目	08	図書館費		根拠法令・条例等 図書館法、霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例、同条例施行	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

2. 事務事業の概要・目的・指標 <Do>

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)

・市内に国分・隼人図書館、溝辺・横川・牧園・霧島・福山図書室の2図書館、5図書室が設置されている。公共図書館としての役割を果たすために多様な図書資料の整備に努め、幅広い年齢層の方々のニーズに応じた図書の提供を行う。
 また、未所蔵本に対する購入希望状況、予約の状況等や図書の出版傾向(ベストセラーの把握、新聞等の書籍の紹介)にも目を向けながら、計画的な購入・相互貸借等の活用で利用者の要望に対応し、図書資料の収集、整理、提供等を行う。さらに、図書館施設の維持管理を行なう。
 ・貸出冊数...国分・隼人・牧園 1人10冊、溝辺・横川・霧島・福山 1人5冊
 ・貸出期間...15日以内
 ・貸出対象者...市内居住者、市内への通勤・通学者

活動指標 (事務事業の活動量)	単位	平成31年度 (実績)	令和 2年度 (見込)	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (見込)	令和 4年度 (見込)
ア 入館者数	人	202,045	200,000	128,203	150,000	150,000
イ 蔵書冊数	冊	418,487	422,000	396,350	400,000	401,000
ウ						

(2) 事務事業の目的

対象 (誰、何を対象にしているのか)	対象指標 (左記 対象の大きさを表す指標)	単位	平成31年度 (実績)	令和 2年度 (見込)	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (見込)	令和 4年度 (見込)
ア 市民	人口	人	124,367	124,181	124,882	123,908	123,639
イ							
ウ							

意図 (対象をどうしたいのか)	成果指標 (左記 意図の達成度を表す指標)	単位	平成31年度 (実績)	令和 2年度 (目標)	令和 2年度 (実績)	令和 3年度 (目標)	令和 4年度 (目標)
ア 欲しい情報を得られる	貸出者数(移動図書館を除く)	人	98,833	100,000	77,954	80,000	80,000
イ 興味がある本を読める	貸出冊数(移動図書館を除く)	冊	343,946	354,000	343,017	350,000	350,000
ウ							

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

令和 2年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)

・リンクエスト以外に相互貸借を利用して貸出希望に無償で対応しているが、要望が増加する中、使込値(*1)により無償で利用できる県立図書館以外からの相互貸借については運用方法を検討する。
 ・インターネット予約を推進する体制を整えるために運営時間の見直しも視野に入れ、利用者が複数の選択肢から好きな本だけの本の借り方・受け取り方・返し方ができる機器やシステムの導入を検討する。
 *1 県の機関と市町村との間で文書等の集配送を行う制度(使込便)を県が独自に運用しており、同制度を利用して無料で県立図書館との相互貸借を実施している。

4. 事業費の推移

事業費	単位	31年度 決算	2年度		3年度 当初予算	4年度 計画
			当初予算	決算		
国庫支出金	千円	0	0	30,000	0	0
県支出金	千円	0	0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	62	90	37	80	80
一般財源	千円	57,429	62,106	70,272	64,440	72,084
事業費	千円	57,491	62,196	100,309	64,520	72,164

5. 令和 2年度の実績及び成果

(1) 令和 2年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和 2年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
<ul style="list-style-type: none"> 各図書館(室)において、蔵書構成を考慮しながら図書資料等の収集、整理、提供等を行った。 新型コロナウイルス感染症対応地方創生臨時交付金を活用し、国分図書館の開架書架15万冊にICタグを貼付し、自動貸出機・自動返却機・蔵書検索システム・貸出ロッカー・セキュリティゲート等を導入した。 インターネット予約が貸出中の本だけでなく、国分・隼人図書館の貸出し可能な全ての本を対象とするよう改善した。 県立図書館以外の相互貸借について、運用方法を検討・改善した。 児童コーナーの書架照明をLEDに交換した。 	<ul style="list-style-type: none"> 各図書館(室)が割り当てた図書購入費の中で、蔵書構成を考慮・工夫しながら、新たな図書資料を収集・提供することができた。 交付金で新しい機器を導入し、新しい生活様式に対応するための「非対面型サービス」を提供する体制ができた。 セキュリティゲート設置により、手続き漏れ・盗難防止につなげることが可能となった。 インターネット予約対象本の範囲拡大により、予約しやすい環境を整えた。 他自治体を参考に相互貸借の運用を改善し、事務を効率化した。 児童コーナーの書架照明をLEDに交換し、快適に利用できる環境を提供した。

事務事業 番号	02437	事務 事業名	図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

6. 振り返り <SEE (check) >

A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

総合評価判定基準	総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	A	多様なジャンルの本を揃え、市民が必要とする情報を提供し、身近で本に触れ合える場として、市立図書館の重要性は今後も増していく。コロナ禍の状況において国の交付金を利用し、「非対面型の貸出・返却・受取り」を実現させたが、今後機器の利用を定着させることで、利用者、貸出冊数の増加など成果向上を目指す。図書館運営に関わる人員は必要最小限であるため、これ以上の削減はできない。図書館は全ての市民が利用可能なため、公平・公正である。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)

		【参考】前年度の改革改善の方向性 継続・やり方改善 << >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡 充			
		維 持		レ	
		縮 小			
		休廃止（統合含む）			
		皆 減	縮 小	維 持	拡 大
		コスト投入（予算）の方向性			
(2) 令和 3年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・基本的な司書業務を会計年度任用職員が行なえるよう、担当を持たせ定着させる。 ・未返却本の督促作業を定期的を実施する。（特に初期段階での抑止） ・便利なインターネット予約の周知に努め、導入機器の活用促進を図る。 ・廃棄作業を進め、閉架書庫の整理に努める。 ・読書活動の推進に要する、人員と図書資料費を検討する。 ・図書館システムの更新にあわせて、図書室のシステム導入を検討する。 				
(3) 令和 4年度の方向性 (具体的な取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・ボランティア養成講座を開催し、図書館の実務を経験することにより、積極的にボランティア活動に取り組む人材の育成を図る。 ・廃棄作業を進め、閉架書庫を整理し、併せて来館者が利用しやすいよう閉架書庫の環境改善に努める。 ・新たに人員と図書資料費を確保し、読書活動を推進する。 ・「視覚障害者等の読書環境の整備に関する法律（読書バリアフリー法）」に基づくコンテンツを検討する。 ・図書館システムの更新にあわせて、図書室のシステム導入を検討する。 				

8. 2次評価結果 (担当部長評価)

		評価者				職・氏名	
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡 充					
		維 持					
		縮 小					
		休廃止（統合含む）					
		皆 減	縮 小	維 持	拡 大		
		コスト投入（予算）の方向性					
(2) 総評							

1. 基本情報						
事務事業番号	02438	事務事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課	国分図書館
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理図書グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3053
予算科目目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和43年度 ~)	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度(~)	
目	08	図書館費		根拠法令・条例等	図書館法、霧島市立図書館の設置及び管理に関する条例	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)

図書館から遠隔地にある地域、住宅、団地、小学校等に、移動図書館車での本の巡回サービスを実施し、市民の教養と文化の向上を図るための学習環境づくりを支援する。

- ・国分図書館移動図書館車「しるやま号、しるやま号小型」、隼人図書館移動図書館車「すずかけ号」
- ・巡回箇所91箇所 ・配本所27箇所 ・貸出冊数 10冊以内 ・貸出期間 1ヶ月以内(次回巡回日まで)
- 一般巡回場所(各地域・住宅・団地等)・・・年間の移動図書館日程表を作成し、月に1回決まった時間に出向き利用者に貸出を行う。リクエスト(読みたい本)等の要望を聞き、次の巡回日に持参する。毎年巡回場所の見直しを行う。
- 小学校・・・年間の日程表により月に1回の巡回。個人のリクエスト(読みたい本)の要望にも応え、事前に先生方と連携をとり、調べ学習用の本を準備し、貸出を行う等工夫を行っている。毎年巡回学校の見直しを行う。小規模校では、おはなし会も実施している。

活動指標(事務事業の活動量)	単位	平成31年度(実績)	令和2年度(見込)	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)
ア 巡回箇所	箇所	90	91	91	86	86
イ						
ウ						

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	平成31年度(実績)	令和2年度(見込)	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)
ア 市民	人口	人	124,367	124,181	124,882	123,908	123,639
イ							
ウ							
意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	平成31年度(実績)	令和2年度(目標)	令和2年度(実績)	令和3年度(目標)	令和4年度(目標)
ア 欲しい情報を得られる	貸出者数(移動図書館分のみ)	人	8,110	9,000	8,428	8,500	8,500
イ 欲しい情報を得られる	貸出冊数(移動図書館分のみ)	冊	51,884	60,000	52,367	55,000	55,000
ウ							

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)

多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。

また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

令和2年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)

・移動図書館の利便性を高めるために、巡回の場所や時間等を検討し、市民の身近な所で利用できる地域に巡回場所を設定し、その場所周知として、図書館から遠い地域に巡回場所を設定し、その場所周知していただくために周知に力を入れる。学校との連携を密に取り、調べ学習リスト等学習に役に立つ資料を提供できるように、準備をする。移動図書館車を巡回することにより、乳児から大人まで身近な本がある環境を提供し、読書推進に繋げていく。

4. 事業費の推移

事業費	単位	31年度	2年度		3年度	4年度
		決算	当初予算	決算	当初予算	計画
国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
県支出金	千円	0	0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0
一般財源	千円	4,242	4,700	4,630	4,611	4,611
事業費	千円	4,242	4,700	4,630	4,611	4,611

5. 令和2年度の実績及び成果

(1) 令和2年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和2年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
<ul style="list-style-type: none"> ・全体の巡回箇所の見直しを行い、移動図書館の機能を活かし、利用者の利便性向上に努めた。巡回は、利用者のリクエスト(読みたい本)の要望に応えるなど工夫をして行った。小学校の巡回は、小規模校を中心に市内全体で実施し、読書推進につながった。 ・巡回箇所91箇所(国分しるやま号:57か所・隼人すずかけ号:34か所) ・国分において巡回箇所の見直しを行った。(3か所増、2か所減)隼人において効率よく巡回できるように、コースの変更をした。 ・移動図書館用の本の充実整備を進めた。 ・利用者の予約・リクエストを重視し、市民が求める資料を提供した。 	<ul style="list-style-type: none"> ・巡回箇所の見直しやコースの変更を行ったことにより、貸出人数・冊数共に増となった。利用者からのリクエスト(読みたい本)の要望に応えるサービス等、知りたい情報・求めている本の提供を行い、利用者の利便性向上並びに本の充実に努め読書推進につながった。

事務事業 番号	02438	事務 事業名	移動図書館運営事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

6. 振り返り <SEE (check) >			
A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？	
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である	
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である	
	結びついていない	見直す必要がある	
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？	
	向上する余地はかなりある	影響がある	
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある	
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない	
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？	
	削減できない	削減できない	
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある	
	削減できる	削減できる	
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？		
	公平・公正である		
	見直す必要がある		
総合評価判定基準		総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討		A	図書館は、市民の教養と文化の向上を図るための学習支援を行う機関であり、移動図書館はその一部である。市民への生涯学習支援が「いつでもどこでも」得られる手段として、その機能を生かし、市が実施すべき事業である。今後も市民からの要望等を考慮しながら、巡回場所について検討し、市民の利便性を向上させる。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan) > (組織決定)		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡充			
	維持			レ	
	縮小				
	休廃止（統合含む）				
		皆減	縮小	維持	拡大
		コスト投入（予算）の方向性			
(2) 令和3年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	・毎年の業務として、移動図書館の利便性を高めるために、巡回の場所や時間等を検討し、市民の身近な所で利用できるように改善し、工夫していく。そのためには、課題として、図書館から遠い地域に巡回場所を設定し、その場所を知っていただくために周知に力をいれる。学校との連携を密に取り、調べ学習リスト等学習に役に立つ資料を提供できるように、準備をする。移動図書館車を巡回することにより、乳児から大人まで身近な所に本がある環境を提供し、読書推進に繋げていく。				
(3) 令和4年度の方向性 (具体的な取組)	・移動図書館の蔵書の充実を図り（新刊等の貸出）、巡回を行いながら広く市民が「いつでも・どこでも・だれでも」気軽に利用できるサービスを実施し、市民に広く周知する。 ・移動図書館の利便性を生かし、「遠くの図書館に来ることが困難な市民」に対しての図書館サービスを拡大できるように巡回箇所の見直しに取り組む。 ・市民のリクエスト（読みたい本）等の要望に応えることのできるような体制を作り、身近な図書館としての機能を発揮していけるように改善していく。				

8. 2次評価結果 (担当部長評価)		評価者	職・氏名
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡充	
	維持		
	縮小		
	休廃止（統合含む）		
		皆減	縮小 維持 拡大
		コスト投入（予算）の方向性	
(2) 総評			

1. 基本情報						
事務事業番号	02440	事務事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部	
政策名	004	はぐくみ(社会を生き抜く力と生涯を通じて学びあう力を育むまちづくり)			担当課	国分図書館
施策名	002	多様な学びを支援する社会教育の充実			グループ	管理図書グループ
基本事業名	003	自ら学び、高め合う体制づくりと学習環境の充実			内線番号	3053
予算科目	会計	一般会計		事業期間	単年度のみ	
	款	10	教育費		単年度繰返(開始年度 昭和33年度 ~)	
	項	06	社会教育費		期間限定複数年度(~)	
目	08	図書館費		根拠法令・条例等	図書館法第3条、子どもの読書活動の推進に関する法律等	
評価区分	標準評価	評価対象	1次評価	関連計画	霧島市教育振興基本計画、霧島市子ども読書活動推進計画	

2. 事務事業の概要・目的・指標<Do>

(1) 事務事業の概要 (具体的なやり方、手順、詳細を記述)

幅広い年齢層の多様な読書行事等への参加を通して、読書への関心、様々な学習への興味を喚起することにより、学習活動の推進を図る。

- ・おはなし会
 - 赤ちゃん・幼児・児童を対象とした、図書館職員やボランティアグループによるおはなし会の開催(毎月)。
- ・おはなし王国等読書イベント
 - 各図書館(室)で地域の方を対象に、おはなし会・工作・映画鑑賞会等の開催。
- ・夏休み特別講座
 - 植物採集教室、昆虫標本教室、からくり絵本教室、植物名付け会、えほんとわらべうた、かがくあそびの開催。
- ・その他開催行事等
 - ブックスタート、子ども読書の日、こどもの読書週間、読書週間、緑陰読書、きりしま読書会
- ・図書館だより等の作成・配布

活動指標(事務事業の活動量)	単位	平成31年度(実績)	令和2年度(見込)	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)
ア 行事の開催回数	回	141	150	79	100	100
イ						
ウ						

(2) 事務事業の目的

対象(誰、何を対象にしているのか)	対象指標(左記対象の大きさを表す指標)	単位	平成31年度(実績)	令和2年度(見込)	令和2年度(実績)	令和3年度(見込)	令和4年度(見込)
ア 市民	人口	人	124,367	124,181	124,882	123,908	123,639
イ							
ウ							

意図(対象をどうしたいのか)	成果指標(左記意図の達成度を表す指標)	単位	平成31年度(実績)	令和2年度(目標)	令和2年度(実績)	令和3年度(目標)	令和4年度(目標)
ア 読書に興味を持ってもらう	読書に興味を持った参加者数	人	6,140	6,300	2,476	3,000	3,000
イ							
ウ							

(3) 総合計画との関係

基本事業の目的、取組方針(総合計画より)
 多様化・高度化するニーズに対応し、関係機関と連携した学習機会や学習内容の充実に努めるとともに、市民が、必要な情報を容易に入手できるよう、広報誌や図書館システムなどを活用した情報提供を行います。
 また、社会教育施設の改修やメディアセンター等の機器の更新を通じ、市民が利用しやすい学習環境の整備に努めるとともに、社会教育における学びを通して、地域を知り、課題に気づくことで、その解決に向けた活動に繋がる場や機会の充実に努めます。

3. 前年度の評価表に記載した課題

令和2年度の改善改革の内容(取り組むべき課題)
 ・毎年開催される読書行事の内容の見直しを行い、多様な読書行事に多くの市民の方に参加していただくため、開催回数が減少しないように努め、読書推進を図る。
 ・読書行事の参加を促すために、より多くの市民に広報できるように工夫し、周知を徹底する。

4. 事業費の推移

事業費	単位	31年度	2年度		3年度	4年度
		決算	当初予算	決算	当初予算	計画
国庫支出金	千円	0	0	0	0	0
県支出金	千円	0	0	0	0	0
地方債	千円	0	0	0	0	0
その他	千円	0	0	0	0	0
一般財源	千円	576	654	557	644	644
事業費	千円	576	654	557	644	644

5. 令和2年度の実績及び成果

(1) 令和2年度の実績(取組) <取組内容を数値等により具体的に記載>	(2) 令和2年度の成果 <左記の実績(取組)による成果を記載>
各種読書推進行事等の開催 ・ブックスタート(12回、1,375人参加)保健センターと連携し、新型コロナウイルス感染症対策をしながら開催した。 ・おはなし会(51回、670人参加)4~9月まで新型コロナウイルス感染症の影響で中止とした。 ・夏休み特別講座(1回、15人参加)参加人数を制限し、「からくり絵本作り」のみ実施した。 ・緑陰読書(3回、70人参加) ・おはなし王国等読書イベント(6回、358人参加)感染症対策をしながら、縮小して実施した。 ・きりしま読書会(5回、21人参加) ・図書館だより等の発行(12回) ・外出を減らし、自宅でゆっくり読んでいただくため、貸出冊数を5冊から10冊に変更した。	・新型コロナウイルス感染症の影響により、例年通りのおはなし会や読書まつり等の行事を開催することができなかった。 ・新型コロナウイルス感染症対策をとりながら実施したブックスタートだったが、赤ちゃんにとって本が大切であることが認識され浸透し、図書館利用やおはなし会の参加につながっている。 ・貸出冊数を5冊から10冊に変更したため、貸出人数は減少したが、冊数は例年通りの冊数まで貸出すことができ、読書推進につながった。

事務事業 番号	02440	事務 事業名	図書館読書推進事業	担当部	教育部
				担当課	国分図書館

6. 振り返り <SEE (check)>

A 目的 妥当 性	この事業の目的は、基本事業の目的、取組方針に結びついていますか？	・この事業をなぜ市が行わなければならないですか？ ・税金を投入して達成する目的ですか？
	結びついている	市が実施すべき事業又は実施しなければならない事業である
	間接的に結びついている	市が実施することは妥当である
	結びついていない	見直す必要がある
B 有効 性	成果が向上する余地（可能性）はありませんか？	廃止・休止の影響はありませんか？
	向上する余地はかなりある	影響がある
	向上する余地はある程度ある	影響はある程度ある
	向上する余地はほとんどない	影響はほとんどない
C 効率 性	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、事業費を削減できませんか？ ・補助金など、交付先に働きかけて、市の負担を削減できませんか？	・事務事業の手段（やり方）を工夫することで、人件費（延べ業務時間）を削減できませんか？ ・職員以外の対応や委託により人件費を削減できませんか？
	削減できない	削減できない
	削減する余地はある程度ある	削減する余地はある程度ある
	削減できる	削減できる
D 公平 性	事務事業の内容が一部の受益者に偏っていませんか？ また、受益者負担の公平性が確保されていますか？	
	公平・公正である	
	見直す必要がある	

総合評価判定基準	総合評価	理由
A:継続して取り組むことが適当（やり方改善含む。） B:事業規模・内容・実施主体の見直しの検討 C:事業の統合、休・廃止の検討	A	図書館法及び子どもの読書活動の推進に関する法律に基づき、読書推進を自治体が行うことが求められているため、市が本事業を行うことは妥当であり、目的に結びついている。そのためには、図書館（室）とボランティアグループ等が連携をとり、幅広い年齢の方が参加できる読書行事を開催することで、市民に図書館が身近な施設と感じてもらい、その結果、現状値の向上が期待できる。

7. 1次評価結果 <PLAN (Action - Plan)> (組織決定)

		【参考】前年度の改革改善の方向性 << 継続・やり方改善 >>			
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡 充			
		維 持			レ
		縮 小			
		休廃止（統合含む）			
			皆 減	縮 小	維 持
			コスト投入（予算）の方向性		
(2) 令和 3年度の改革改善の内容 (取り組むべき課題)	<ul style="list-style-type: none"> ・毎年開催される読書行事の内容の見直しを行い、多様な読書行事に多くの市民の方に参加していただくため、開催回数が減少しないように努め、読書推進を図る。(夏休み行事「昆虫標本づくり」を「昆虫のおはなし」に変更・「植物採集教室」を「1日司書体験」に変更する。) ・読書行事の参加を促すために、より多くの市民に広報できるように工夫し、周知を徹底する。 ・霧島市子ども読書活動推進計画（第4次）作業部会を立ち上げ、第4次策定に向けた準備を行う。 ・ブックスタートからその後の読書活動につなげる新たな事業を創設する。司書が選定したお薦めの本を貸し出す新たなサービスの運用を開始する。 ・福祉コーナーの充実を図る。 				
(3) 令和 4年度の方向性 (具体的な取組)	<ul style="list-style-type: none"> ・新しい生活様式に準じた読書行事の内容を見直し、幅広い年齢の方に参加していただけるよう実施方法の工夫や改善を行い、魅力ある行事内容の充実を努める。 ・霧島市子ども読書推進計画の作業部会を関係部署担当で編成し、第4次策定に向けた準備を行ない、定期的な読書推進活動につなげる。 ・ブックスタートからその後の読書推進として、司書が選定したお薦めの本を貸し出す新たなサービスを充実させる。 ・福祉コーナーの充実を図る。 				

8. 2次評価結果 (担当部長評価)

		評価者				職・氏名	
(1) 今後の事務事業の改革改善の方向性	の事業 方向性 (成果)	拡 充					
		維 持					
		縮 小					
		休廃止（統合含む）					
			皆 減	縮 小	維 持	拡 大	
			コスト投入（予算）の方向性				
(2) 総評							

